

監修者推薦の言葉

30代・40代を中心に、働き盛りの世代でうつ病を発症する人が増えています。厳しい経済状況の中、人材の流動化や非正規雇用の拡大、企業間競争激化、商品サイクルの短縮化、恒常的な繁忙期化など労働環境が激変しています。実際に、仕事において強い不安、ストレス等を感じる人が約6割という状況が続いています。このような背景の中、うつ病に苦しむ従業員の増加は、今や深刻な社会問題となっています。また、うつ病は、患者本人はもちろんのこと、企業にとっても労働力の大きな損失が生じてしまいます。

この教材は、心の健康の問題について正しい知識を知り考えることを目的としています。企業がうつ病に対してどのように取り組むべきなのか、うつ病の予防と対応について、企業の担当者が理解を深め、どう取り組めばいいのかを具体的に紹介しています。

医療法人社団弘富会 神田東クリニック・MPSセンター・産業精神保健研究所

精神科専門医 労働衛生コンサルタント 院長 高野知樹

作品概要

■ある男性の自殺

ある企業に30年勤務したが56歳で、うつ病による自殺を遂げた男性の例を捉え、現代のビジネスマンの厳しい実情を検証する。従業員を自殺で失うことは、企業にとっても大きな損失であり、対策が急がれている。

■働き盛りの中高年男性の自殺が増加

バブル崩壊以降の急激な労働環境の変化により、従業員のストレスは増加の一途を辿っている。特に企業の中で重要なポストにある中高年男性の自殺は後を絶たない。

■自殺の危険因子

様々な危険因子を挙げる。危険因子が多いほど自殺のリスクが高まると考えられている。

■自殺の影に潜むうつ病

自殺する直前、7割の人が抑うつ状態、もしくはうつ病と言われている。

■本人、企業がうつ病と気付くためには

うつ病の原因はストレスと考えられる。いくつかの共通した症状とは？

■管理監督者によるメンタルヘルスケア

従業員の健康には様々な要因が影響を与える。従業員のメンタルヘルスケアは管理監督者の役割も大きい。

■専門スタッフによるメンタルヘルスケア

産業医、看護師、衛生管理者など健康管理スタッフは相談窓口となり従業員を支援する。だが見落としがちなことのひとつが管理監督者の心の健康。管理監督者も従業員のことを考えうつ病になるケースも少なくない。

■EAPなど外部サポートの利用

会社の中で対応できない問題が起こった場合、外部機関や専門医を活用し支援を受けることも必要だ。EAPは従業員やその家族の問題解決を外部機関がサポートするサービス。従業員がメールで専門医に相談することができる。

■復帰支援プログラム

もう一つ、多くの企業が抱えている問題に、うつ病など心の問題で休職している従業員の復帰問題がある。従業員の復帰に対して企業は復帰支援プログラム作成し、従業員に告知しておく必要がある。復帰支援プログラムについても詳しく捉えていく。

監修 医療法人社団弘富会 神田東クリニック・MPSセンター・産業精神保健研究所
精神科専門医 労働衛生コンサルタント
院長 高野知樹

企画・制作統括	高木 裕己
プロデューサー	宇田川 東樹
脚本・演出	岩永 敏明
撮 影	君 武
ナレーター	保谷 果菜子
製作・著作	株式会社映学社

●価格（VHS・DVD・25分）

- ・ライブラリー価格 ¥68,250（税込）
- ・2011年・映学社作品

●お問い合わせ、お買い上げは……

 株式会社映学社
EIGAKUSYA CO.,LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目7番8号らんざん5ビル
TEL: 03-3359-9729(代表) FAX: 03-3359-4024
<http://www.eigakusya.co.jp/>